

泰日協会学校（バンコク日本人学校）学校だより
Thai Japanese Association School



令和6年
第7号

<https://www.tjas.ac.th>

小学部職員室

02-319-5457

中学部職員室

02-314-7335

毎年、本校とタイ現地校で交流学習会を行っています。

7月には7年生で、また、9月には小学部の各学年で交流学習会が行われました。今年度の各学年の交流学習会の様子についてお伝えします。

なお、6年生については6月の修学旅行の際に行っておりますので、学校だより第4号（7月）に掲載しております。

【1年生】

カセサート大学附属小学校との交流学習会では、体を使った日本の伝承遊びや、折り紙で手裏剣を折る活動をしました。様々な活動を通して、タイの友達と徐々に打ち解け、交流を深めていく姿が見られました。また、トイレに案内するときや昼食のときなど、活動が設定されていない時間にも手をつなぎながら歩いたり、楽しそうに笑い合ったりする様子も見られました。自然に生まれた交流の中で、言語の壁を超えて相手とつながれていることをうかがい知ることができ、嬉しく思いました。

閉会式では、「しあわせならてをたたこう」をタイ語と日本語と一緒に歌いました。その後、カセサート校の児童が退場する際には、子供たちの間で別れを惜しんで挨拶をしており、その様子は交流学習会が子供たちにとって充実したものであったことを物語っていました。来年もまた、カセサート校と交流学習会を行う予定です。今回の気持ちを、また来年につなげられたらと思います。



【2年生】

昨年度に続き、カセサート大学附属小学校との交流。ホスト校として迎えるのが2度目になる今年度は、全体交流の「じゃんけん列車」や学級交流の「夏祭り」、合同合唱「大きな歌」を行いました。

その中でも、力を入れて取り組んできた「夏祭り」を紹介します。「日本の夏祭りを体験してもらおう」と生活科の時間にどんな出店をしたら楽しんでもらえるのか、どんな言葉を使うと伝わるのかを考えたり練習したりして1学期から準備をしてきました。魚釣り、モグラたたき、くじ引き、輪投げ…それぞれの教室に工夫を凝らした出店が並び、お店役の本校児童も、お客さん役のカセサート児童も笑顔いっぱいになりました。「いらっしゃいませー」とお客さん呼び込む声には、自信が溢れ、「一緒に遊ぼう」「上手だね」と寄り添う姿には思いやりの心が表れていました。後で知ったのですが、相手校の職員が「これを自分たちで考えたのですか」と驚かれていたそうです。

この交流学習会は、タイで暮らしているからこそできる経験です。子供たちにとって忘れられない日になったことでしょう。人と関わることの楽しさ、お互いの文化を大切にす気持ちを忘れずにこれから先も多くの出会いを大切にしてほしいと思います。



【3年生】

ダラカーム校と交流学習会を行いました。今年度はゲストとして、ダラカーム校に行き、お互いの文化を紹介したり、一緒に取り組んだりしました。全体交流の「エビカニックス音頭」や「タイの伝統的な文化の踊り」、グループ別交流の「だるまづくり」や「かるた遊び」、「爆弾ゲーム」や「ボール入れ」をしてタイの小学生と交流しました。

学校で習ったタイ語や英語を使って話しかけたり、指さし会話帳やジェスチャーを織り交ぜながら、だるまの作り方を教えたりとコミュニケーションを一生懸命にとる姿が印象的でした。

交流学習会が後半になるにつれて心を通わせた子供たち。閉会式で集合写真を撮ったときはみんな笑顔でパシャリ。最後、ガラカームの子供たちに見送られてバスに乗るときには、ハイタッチをしながら笑顔でさようならをする子や、「まだ一緒に遊びたい。」と、どこかさみしそうな子もいました。

海外の日本人学校にいるからこそできる貴重な経験。話す言葉は違うけれど、同じ小学生。嬉しいことや楽しいこと、仲よくなる方法は世界共通だと感じてくれたのではないのでしょうか。



【4年生】

2学期が始まったと同時にあわただしく動き出した交流学習会。今年はシーナカリン大学附属小学校が会場となった交流でした。限られた時間の中で本番に向けてプレゼントの万華鏡を製作したり、歌やダンスを練習したりと、子供たちが生き生きと活動している様子が見られました。

交流学習会当日は手厚いおもてなしを受け、大変有り難かったです。交流ではいろいろな場面で両校の子供たちからたくさんの笑顔を見ることができました。互いに言葉や文化の違いはあれど、関わりを深めながら充実した時間を過ごすことができました。



【5年生】

昨年度に続き、シーナカリン大学附属小学校との交流学習会を行いました。シーナカリン校との交流学習会は1980年から続いており、両校にとって伝統ある行事となっています。5年生の児童は、昨年度はホストとして、そして今年度はゲストとして、2年連続で交流を深めました。そのため、去年出会った子の顔を覚えており、再開を喜ぶ姿もありました。

活動の中で特に印象に残ったことはタイの伝統衣装を着ての写真撮影です。シーナカリン校の子供たちが、不慣れな衣装に戸惑っている本校の子供たちに、すごく丁寧に着方を教えてくれたり、手伝ってくれたりしていました。タイの人々の優しさに触れた瞬間でもありました。普段着ることのない衣装を身にまとう子供たちの姿を見ていると、タイと日本の文化の交流を、まさしく体現していました。



【7年生】

チュラロンコン大学附属中学校との交流学習会を実施しました。本校がホスト校として、コース別交流やスポーツ交流を行いました。

オープニングの出し物では、本校の生徒がエイサーを披露しました。日本の文化を、堂々と紹介しました。

コース別交流では、10のコース(①書道A、②書道B、③サッカー、④音楽、⑤ダンス、⑥紙飛行機、⑦昔遊び、⑧理科、⑨日本語A、⑩日本語B)を設定し、日本の授業を、チュラロンコン校の生徒さんたちに楽しんでもらいました。それぞれのコース担当の先生方の指導の下、実行委員が中心となって企画や準備を行い、運営や交流等を行いました。英語やタイ語、日本語を駆使し、ジェスチャー等を交えながら、チュラロンコン校の生徒さんたちを上手にリードしながら共に笑顔で活動する姿が見られました。

午後からはスポーツ交流(二人三脚・綱引き)を行いました。

実行委員が司会進行やデモンストレーションを行い、活動を引っ張りました。二人三脚、綱引きをクラス対抗で行い、大変盛り上がりました。

閉会式では、『スパークル』を全員で歌い、会を締めくくりました。日本語とタイ語の部分を担当し、毎日練習を重ねて臨みました。体育館中に、素敵なピアノの生演奏と、両校の生徒の優しくも力強い、素晴らしい歌声が響き渡り、感動を呼びました。

交流会を通して、両校の生徒の交流が深まり、様々な学びや気づきを得ることができました。お互いの様々な違いや共通点等を理解し、認め合いながら、未来に向けて歩いていくことを実感した1日となりました。

